



第1055号
2007年11月4日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇11月の代祷・信施奉献先
▽笹島キリスト教連絡会のため
▽滝乃川学園のため▽障害者週間のため(11日〜17日)▽人権活動を支える主日(11月25日)
《奉献先から》

笹島キリスト教連絡会

当連絡会は、現在、名古屋市周辺にて野宿を強いられている人々の生命と人権を守るために、殊にキリスト教会各派や市民団体などに協力を呼びかけながら、主に以下のような支援活動を行なっています。①事件に巻き込まれ逮捕・拘束あるいは起訴された野宿生活者に対する獄中支援と裁判支援、②野宿生活者の生活相談や生活支援、③2001年に当連絡会が母体となつて設立した「NPOささし

ま共生会」による炊出し、デイケア、住居提供等の活動に対する援助。
(笹キ連事務局長 司祭 野村 潔)

◇堅信受領

10月28日 小金井聖公会で
▽矢崎歩未▽田代絵麻(小金井)

◆とこしえの平安

10月11日 小野 誠一(83)

10月18日 柳本とき江(89) 聖マルチン
10月19日 小林 季子(93) 真光
聖三一

▽聖パウロ・ランチタイムコンサート 11月9日(金) 12時
20分、ヴァイオリン||中島久美・ピアノ||中島由紀。30分程度、入場無料。

今週・来週の予定

11月4日~17日

- 4(日) 聖霊降臨後第23主日 主教巡回 東京諸聖徒教会
- 6(火) 教財務サービス委員会
- 8(木) 正平協運営委員会 人権委員会 (聖バルナバ)
- 9(金) エ教区協働委員会 広報委員会
- 10(土) エ教区ボランティア 訪問報告会
- 11(日) 聖霊降臨後第24主日 主教巡回 東京聖マルチン教会
- 12(月) 財政委員会 幼稚園委員会
- 13(火) 銀座朝拝会 常置委員会
- 14(水) 月島~特別委員会
- 16(金) 信徒講座: 竹内司祭

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

立教女学院は、一八七七年に神田明神下(湯島)で開校されてから、本年創立百三十周年を迎える。大掛かりな記念行事は今回実施しないが、幾つかのことを記念として行うことを決めた。

第一は、聖路加国

際病院のご理解とご好意を受けて、「築地居留地校舎跡記念碑」を建てることになった。第二は、『草

《恵みに生かされて》

「メモリア」に生かされて

有名な聖アウグス丁ンボルになることを願っている。

創期の人たちの物語」と題して学院を支えた人々、ウィリアムズ主教、マキム主教、ヘイウツド先生など、先人たちの短い伝記を出版すること。主に在校生に学院の歴史を少しでも知ってもらうためのものがある。第三に、中高生のレベルで、「戦

司祭 中村 邦介

有名な聖アウグス丁ンボルになることを願っている。

に論文募集をし、優秀作品を『提言集』にして社会に発信することを考えている。第四は、来年度から小学校から中高・短大まで共通して使用する『立教女学院礼拝用書』を作成中である。これが、ある意味で学院の一貫教育のシンボルになることを願っている。

なものを「メモリア」と呼んだ。それは単に「記憶」という意味だけではなく、すべての分裂した自己を再統合し、現在から将来の可能性に関わるものである。記念すべき年に当たり、神の恵みの「メモリア」を深く受けとめて歩みたい。
(立教女学院院长)

信仰と生活委員会報告

(10月25日)

*青年活動支援部会・ナヌムの旅・信徒講座実施等の報告。

*秋期信徒講座の確認。来年度の新講座企画に対する講師や講座について各教会G協議会へ希望や提案を要請する。

*来年度教区代祷・信施奉獻先について協議(本年度分に「国際子ども学校」を追加)。

*SSSでは『こどもにゆーす』を12月9日に発行、また新年餅つき大会を企画(1月26日・浅草聖ヨハネ教会)。その他。

▽八王子復活教会Ⅱ秋の講演会 講師にエッセイストその他多分野で活躍中の黒柳眞理(黒柳徹子次妹)を迎えて、「わたし

は弱い時にこそ、強い」の演題で。11月17日(土) 13時半〜15時、入場無料(入場整理券、事前申込要)。TEL 042(642) 5105・FAX:(642) 6322。

▽東京聖マルチン教会主催インドの「隣人(となりびと)」に聴く会 17日(土) 15時、目白聖公会で、入場無料。「わたしたち、夢を持ちたい」教育の力で貧困の悪循環から子どもたちを救う」の演題Ⅱインド・クルーニー聖ヨゼフ修道会2人のシスターを迎えて、南インドの厳しい環境下にある2施設現場レポート。NPO・ESAアジア教育支援の会共催、環状G教会協議会後援。照会TEL 03(3932) 2382(主催教会)。

▽立教女学院チャペルコン

サート 25周年記念として「竖琴を奏でて主をたたえ」その調べに合わせてほめ歌え」。中・高各バンドベルクワイヤー、小(短大各聖歌隊により17日(土) 14時、同院聖マーガレット礼拝堂で。入場無料。照会TEL 03(5370) 3038(月・火・木・金)。

▽下町教会G研修会 エルサレム教区協働委員会の呼び掛けで約1ヶ月間、同教区で聖地旅行とボランティア活動を体験した参加者たちによる発題、後半は現地風スナックをつまみながらの懇親会Ⅱ「エ教区訪問団から学ぶ」。信仰と生活委員会後援。25日(日) 15時半、浅草聖ヨハネ教会で。照会TEL 03(3807) 9937(幹事・千住基督教会)。

【学びと働きから】61

「ナヌムの旅」に参加して

10月13日〜17日、「ナヌムの旅」(信仰と生活委員会主催)に参加しました。韓国の歴史と大韓聖公会の営みに触れ、多くのことを学ばせていただきました。

タブコル公園や西大門刑務所歴史館などを皆で訪れ、日韓の重く悲しい歴史を思い起こす機会を与えられました。同時に、平和を求める心に改めて思いを馳せる時ともなりました。大聖堂・修道院での生き生きと備えられた礼拝や活動、毎週各地域で行われている家庭集会に表される、元氣溢れる信仰生活に触れ、励まされる思いがしました。

また社会宣教・福祉的な働き施設として案内していただいたタシソギセンター(路宿者再起支援)の見学・ボランティア体験は、日本でも大きな課題の一つとなっているホームレスの方たちへ向けての活動のあり方、行政等の対応や方策についても考えてみるきっかけとなりました。

参加者15人、おいしい料理をいただき、賑やかな夜の屋台での交流も含めて、盛り沢山で充実した旅でありました。韓国に生活する人びととの交わりを通して、信仰的な気付きや大切な課題がそれぞれの心に与えられたように思います。

聖職候補生 下条知加子
(月島聖公会勤務)

《今、この教会では…》

目白聖公会

当教会では新来者受入れの取り組みとして、従来のアッシャーの活動内容を見直し、今年7月新たにアッシャー・ギルドを創設しました。新組織の目玉は、礼拝出席者の受付や案内、礼拝進行中の気配りやお世話など従来のアッシャーの働きに加えて、新来者に対するきめ細かな配慮にも重点を置いたことです。これは新来者に対してアッシャー・ギルドが継続的に働きかけ、ギルド全体で新来者の受入れに主導的に関わることです。未だ試行錯誤の日々ですが、韓国でのイスルビ伝道を手本に、今後も宣教の担い手として挑戦を続けに行きます。
(宮崎慶司)